

## カボチャ『黄栗(おうぐり)』の茨城県における栽培事例（トンネル促成）

雪印種苗（株）千葉研究農場  
作物研究室 吉村 孝一

茨城県は江戸崎町（現、稲敷市）、総和町（現、古河市）など全国的にも有名なカボチャの産地です。友部町（現、笠間市）においてもブランド化を目指し高品質なカボチャを毎年市場に供給しております。

昨年度、トンネル促成栽培による早出しを行っている旧友部町の農家さんで黄栗カボチャの試作を行いました。しかし、開花期の極低温のため着果が思わしくなく、樹が暴れて小玉にまとまるという結果になりました。幸いなことに、農家さんからは食味が大変良かったとの評価をいただき、本年も試作を継続することとなりました。

今年の試作では2月21日に播種、ガッチリと育苗し小づるを2本に仕立て、3月26日に定植を行いました。

順調に生育し4月末には開花が見られ、順次人工交配を行いました。5月13日からは交配の効率化を図るためにミツバチを導入した結果、各つるに揃い良く3果程度着果しました。ミツバチ導入前の8～10節位での着果率よりも導入後の15～18節位からの着果率が高く虫媒の効果がはっきりと見られました。

ソフトボール大になった頃、大きさの揃った玉を各つる2個に摘果し、フルーツマットを敷き、開花後35日あたり果梗全体に回ったコルクを目安に収穫を行いました。人工交配により初期に結実したものから順に収穫を始め6月10日～7月初旬までが適期での収穫、風乾後4・5玉（2kg弱の大王）を箱に詰め出荷となりました。

また、着果節位の高いものは7月中旬まで収穫しましたが、この時期には暑さによる玉の傷みが懸念されました。

今年の試作は食味の面では強い粉質

感と甘味が再認識され、早出しの適性と多収性が評価される結果となりました。

来年はミツバチ導入時期を早め開花初期の8～10節位での結実を確実にし、収穫期間を6月下旬までに完了させること、草勢をよりコントロールし、

さらに市場性の高い6玉箱程度の大きさに揃えることを課題として試作を継続していきます。

以上のように『黄栗(おうぐり)』は品質と収量性を兼ね備えた早出し栽培に向く品種として、試作でわかった栽培の注意点を生かしながら、他産地でも良品の生産普及を進めていく予定です。



トンネル促成栽培  
(2重トンネル、畝幅270cm、株間80cm)



着果の揃った『黄栗(おうぐり)』